

2008年度 事業報告書

ANNUAL REPORT



財団法人 東京YMCA

TOKYO YMCA

財団法人東京YMCA 2008年度運営方針

－ 東京YMCAの使命 －

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

－ 目的 －

財団法人東京YMCA寄付行為における目的

この法人は、キリスト教精神にもとづき、青少年等の心身の健全な成長をはかるとともに奉仕の精神を養い、もって民主的社會の発展と世界の平和に寄与することを目的とする。

－ 2008年度 運営方針 －

2007年度は事業・組織・財務体質の健全運営を図ると共に、市民が望む地域社会を市民が形成する「市民社会形成」の実現に向けてスタートした年であった。又、地域行政との協働事業を通して、YMCAミッションを上げた年でもあった。厳しい中ではあるが、財務的にも良好に推移したと言えよう。

2008年度は、公益法人制度改革に伴い、公益性を確認し、青少年健全育成を基とする公益活動を展開し、公益財団法人の認定を目指す大切な年である。また、財政再建計画の最終年度にあたり、主要な事業のひとつである学校事業が、大学全入時代という社会状況の中で苦戦が予想される中、組織総体として健全な運営を図る事に意を注ぎたい。

東京YMCAの使命に賛同する会員（個人・法人）・ボランティアと共に、使命達成に力を合わせ、公正で平和な世界をつくり、青少年の健全育成を行うと共に、常に弱い立場におかれた人々、YMCAを必要とする人々と共にある働きを進める。

－ 2008年度 事業計画 －

寄付行為に定めた目的を達成するため事業について以下のとおり計画する。

1 小集団活動を実施する

「共に支えあう相互関係づくり」として小集団活動の手法を用い、青少年育成・野外活動・障がい児・者プログラムをはじめ全ての事業をとおして進展させ、一人ひとりのいのちの大切さを培う。

- (1) 青少年健全育成プログラムを行う
- (2) 障がい児・者へのプログラムを行う
- (3) 居場所プログラムを実施し、一人ひとりの命を大切にする

2 体育、レクリエーション、キャンプ、野外活動等を実施する

幼児・青少年の心身共なる成長、及び、成人・高齢者の健康増進と維持を願って、体育、レクリエーション、キャンプ、野外活動等を実施し、より良い生き方、生活を築くウエルネスプログラムを推進する。

- (1) 幼児、青少年への体育プログラムを行い、生涯に亘って運動・スポーツを親しむ基礎を養う。
- (2) 成人の健康増進を図るプログラムを展開する。
- (3) 高齢者介護予防プログラムを展開する

3 語学、職能教育を実施する

国際理解推進の基盤として語学教育を位置づけると共に、幼少よりの語学教育事業を強化する。また専門学校は定員数を確保し、質の高い指導を行い、社会に必要とされる人間を育成する。

- (1) 語学教育を行い、国際理解の基を築く
- (2) インターナショナルスクールを運営する。
- (3) 専門学校を運営する。(ホテリア育成、社会体育並びに保育専門従事者の育成)

4 講座、講習会、研修会等を開催する

時代状況を読み取り、地域・国際社会の課題を見出して、啓発的な講座、講習会、研修会等の事業を実施する。

- (1) 国際理解講座、ボランティアコーディネーター養成講座、市民講座、環境教育プログラムを行う

5 国際交流等の活動を実施する

国際青少年団体として、各国YMCAとのパートナーシップを発展させ、また、国際交流を進展させ、国際化に適う青少年育成を図る。同時に、国内では在日外国人生活支援活動を行う。

- (1) パートナーシッププログラムを検証し、発展させる
(フロストバレー・バングラデシュ・北京・ハワイ島・ソウル)
- (2) 青少年の国際交流を進展させる。
- (3) 在日外国人支援として生活情報を提供する。

6 社会奉仕活動を実施する

地域社会ネットワークの一員となりコミュニティ形成を担い、社会において弱い立場に立たせられている人々と共に生きるための活動を行う。

- (1) ボランティアによる活動を推進する
- (2) 地域社会との協働活動を行う
- (3) 地域ネットワークの一員としての役割を担う。

7 幼児教育を実施する

子どものいのちを育む幼児教育活動を、保護者・地域の人々と共に展開する。

- (1) チャイルドケア事業を運営する
- (2) 乳幼児保育事業を運営する。
- (3) 子育て支援プログラムを行う。
- (4) 児童館・学童保育の運営を行う。

8 施設を提供する

野外教育プログラムの実践をとおした青少年育成の場とし、指導・プログラム・施設提供を行う。

- (1) 諸団体の野外環境教育プログラムへの施設提供を行う
- (2) NPO、国際協力団体への施設提供を行う

9 その他目的を達成するために必要なことを実施する

寄付行為における8事業の他、目的を達成するための事業を展開する。

特に、YMCAの行う多くの奉仕活動や事業支援を、YMCA使命に賛同する会員(個人・法人団体)を中心とする協力者と共に展開し、事業支援のためのファンダ形成を行う。

- (1) 奉仕者としての会員を中心とする地域奉仕・交流活動を行う
- (2) 公益性事業進展のため国際協力基金、奨学基金、そして、フレンドシップファンダなどを強化していく

2008年度 重点事項

- 1 公益法人としての働きを展開する。
 - a 公益法人制度改革に伴い公益財団法人の認定を目指す
 - b 寄付行為目的事業を推進し、特に青少年健全育成に寄与する
 - c 健全な財務運営を行う
- 2 市民社会の実現に関わる
 - a 各事業が市民社会の形成に関わり、会員部がその働きの核となる
 - b 支え合う社会創りのためにボランティア活動を展開する
 - c 市民社会形成のため目的を共有する団体との連携を深め、積極的な活動を行う
 - d 社会状況やニーズに対応し、研究・提言活動を行う
- 3 持続可能な組織づくりと共に安定した事業運営を行う
 - a 教育事業の充実を図る
 - 1) 専門学校の定員数確保とキリスト教主義学校としての質の高い指導を行う
 - 2) 時代の要請に適った総合的教育事業の研究を行う
 - 3) TYISにおいて社会的認知を受けるための資格取得を目指す
 - b 野外教育センター・キャンプの有効活用を推進する
 - 1) 各センターの特色（コンセプト）を明確にし利用者の拡大を図る
 - 2) 各センターの通年運営を行う
 - 3) 妙高高原ロッジ整備計画を実施し、募金活動を展開する
 - c チャイルドケア事業、児童館事業を充実させる
 - 1) チャイルドケア事業の指導基準作成、指導者養成を積極的に行う
 - 2) 児童館・学童保育を積極的に展開する
 - d 中・長期計画を策定する
 - 1) 将来に向かい、東京YMCAの働きが発展的に展開できるよう計画を定め、対応する。
- 4 国際理解・協力をとおして平和に寄与する
 - a 国際交流、国際理解、そして、国際協力を積極的に行い、アジアのYMCAの一員としての役割を担う
 - b パートナリシップを通して国際交流活動を行う
 - c 国際NGOとして国内外の団体と積極的に連携する
- 5 寄付文化を形成し、基金を充実させる
 - a 賛助会を中心に企業からの活動支援制度を展開する
 - b 遺贈制度を引き続き告知する
 - c フレンドシップファンドを拡大する
 - d 奨学金基金を拡大するため liby 等の後援会、専門学校校友会組織を充実させる

2008年度のあゆみ

●4月1日 指定管理者として、「東雲児童館」「東雲学童クラブ」(江東区)の運営を開始した。

●4月10日 「第18回チャリティーゴルフ大会」をノーザンカントリークラブで開催。74名が参加した。収益金は liby、フレンドシップファンド、ボランティアビューロー、教育シンポジウム、障がい児プログラムなどに用いられた。

●4月12日～13日 「第1回ユースジャンボリー」を山中湖センターで開催した。ユースボランティアリーダーを中心に約70名が集い、「みんなのものがひとつとなるためにー私たちが未来に向かってできることー」をテーマに活動報告やアクティビティーなどを通して学びと交流を深めた。



●4月19日 「第11回東日本地区YMCA理事・常議員・総主事研修会」が仙台YMCAで開催され、東日本地区の各YMCAより75名の参加があった。東京YMCAからは理事・常議員・職員10名が出席した。

●4月29日 高石ともや氏による「 Bangladesh奨学基金チャリティーコンサート」が日本キリスト教団浅草教会で行われ、益金より20万円のご寄付をいただいた。

●5月12日 5月2日に発生したミャンマー南部を襲った大型サイクロン被災者支援のため、東京駅周辺で街頭募金を実施。55名が参加し、111,723円が寄せられた。

●5月21日 5月12日に発生した中国・四川大地震の被災地支援募金を開始した。東京駅周辺で街頭募金を実施し49名が参加、152,903円が寄せられた。

●5月24日 「第6回会員大会」を東陽町センターで開催し、126名が出席した。大会では、前年度の会員部活動報告や会員部運営委員の選出、3名の名誉会員が推挙された他、5名のユースボランティアが表彰を受けた。

●6月21日 日本YMCA同盟の表彰・感謝授与式が東山荘で行われ、東京YMCA会員では、25周年継続会員賞が37名、50周年継続会員賞が29名、青年奉仕賞を8名が受賞した。

●7月17日 「賛助会年会・アドバイザー会」が東陽町センターで開催され、法人会員、アドバイザー、役員、運営委員、職員が出席した。

●8月9日 バーンズ亀山静子氏(ニューヨーク州スクールサイキロジスト/東京ーフロストバレーYMCAパートナーシップ現地委員)を講師に迎え、「発達障がい児を支援する指導者のためにーアメリカと日本の現場からー」と題したセミナーを開催した。教育関係者など110名が参加し大きな反響があった。



●8月30日 「東京YMCA夏まつり」を東陽町センターで開催し、約650名が来場した。子ども縁日や模擬店、ジャズ演奏、抽選会など会員と地域の人々との交流の場となった。

2008年度のあゆみ

●9月13日 渋谷駅周辺で国際協力一斉街頭募金を行った。会員や学生、メンバー、ワイズメン、委員、職員など約400名が募金を呼びかけ、635,431円が寄せられた。



●9月23日 「第22回国際ショナルチャリティーラン」を代々木公園で開催した。88チーム528名が参加した他、約200名のボランティアが活躍した。また多数の企業・団体より協賛や協力をいただいた。益金は東京YMCA障がい児支援プログラムのために用いられた。



●10月18日～19日 「第2回ソシアス・フォーラム～私たちの明日の夢と希望を創り出すために～」(会員部主催)を山中湖センターで開催。会員・職員39名が参加し、小原武夫会員部運営委員長にの発題を受けてグループディスカッションを行った。

●11月13日 東京YWCA、在日本韓国YMCAと合同で、「YMCA・YWCA合同祈禱会」が東陽町センターで行われ、72名が参加した。『自由と平等に生まれて一神に祝福された人権』をテーマに、渡辺英俊牧師(日本基督教団なか伝道所)に奨励をいただいた。

●11月29日 「第3回教育シンポジウム」を東陽町センターで行い、128名が参加した。『我が子の評価基準!?～あなたは子育てを楽しんでいますか～』をテーマに、大沼謙一氏(江東区立豊洲北小学校校長)に講演をいただき、参加者はグループディスカッションで子育ての悩みや課題を共有した。



●12月16日 「3法人合同役員・委員クリスマス礼拝・祝会」を東陽町センターで行い、役員・委員35名が出席された。本会アドバイザーの渡辺信氏(財団法人日本聖書協会総主事)に奨励をいただいた。

●12月19日 「職員クリスマス礼拝・祝会」を東陽町センターで行い、約80名の職員が出席、日本基督教団下谷教会の辻順子牧師に奨励をいただいた。

●1月 江東区との協働事業において、管理監督責任が厳しく指摘されることとなり、改善措置を図るとともに、理事長及び総主事の交代を行った。

●2月21日 総主事就任式が東陽町センターで、深井智朗牧師(日本基督教団滝野川教会)の司式により行われ、国内外のYMCAから90名が出席された。第2部ではHu Wei-yong 北京YMCA理事や Kan Tai Chul ソウルYMCA会長から祝辞をいただいた。

●総括

2008年度は「3ヵ年計画」の2年目に当たり、重点計画に則り活動が推進された。各コミュニティーセンターで行われている会員活動も軌道に乗りつつあり、その輪が広がっている。また、先駆的な役割を担うために、「音訳ボランティア体験会」(西東京コミュニティーセンター)も始められた。

2008年度より会員部と賛助会が合わさり、会員事務局という同じ部署で動いているが、賛助企業から各コミュニティーセンターでボランティア活動に参加するなど、新しい動きも出始めている。3ヵ年計画3年目は、各プログラムの定着化とその充実が課題となる。



●特筆すべきプログラム

・会員部発足から6年目を迎え、新しい会員制度のもとでの評価が出始めている。昨年度から始められた「ソシアス・フォーラム」も2回目を開催し、会員からの忌憚りの無い意見を聞くことができ、今後の課題を抽出することができた。

・第22回インターナショナル・チャリティーランを開催した。厳しい社会情勢の中、88チームが参加された。

・第3回教育シンポジウム「我が子の評価基準!?～あなたは子育てを楽しんでいますか～」を開催し、多数の保護者や各コミュニティーセンターよりボランティアリーダーが参加した。参加型シンポジウムの形を取り、複雑化する社会の中での子育ての悩みや課題を共有することができた。

●2008年度のおゆみ

- 4月10日 第18回チャリティーゴルフ大会
- 5月18日～24日 会員週間芸術祭
- 5月24日 第6回会員大会
- 5月26日 音訳ボランティア体験会
- 5月31日 第57回神田川船の会
- 7月2日 音訳ボランティア体験会
- 8月30日 オール東京YMCA夏まつり
- 9月23日 第22回インターナショナル・チャリティーラン



- 9月29日 日本YMCA同盟表彰伝達式
- 10月13日 第26回ソフトボール大会
- 10月16日 音訳ボランティア体験会
- 10月18日～19日 第2回ソシアス・フォーラム
- 11月9日 第50回記念YMCA ユニークダンスパーティー



- 11月24日 江戸城ファミリーウォーク
- 11月29日 第3回教育シンポジウム
- 2月7日 第10回懸賞論文表彰式

●総括

今年度も多くの賛助会員から継続的な支援をいただいた。また、年間を通して開催されるチャリティーゴルフ大会やインターナショナル・チャリティーラン、各コミュニティーセンターのバザーなどに多くの献品が寄せられ、物心両面から支えられた1年であった。

妙高高原ロッジの施設改修工事に際して、賛助会事務局が窓口の役割を果たし、一企業から800万円のご寄付をいただいた。

●特筆すべきプログラム

・7月17日に東京YMCA賛助会年会・アドバイザー会（於：東陽町センター）を実施し、賛助企業17社、理事・常議員・アドバイザー23名に出席いただいた。また席上で、継続会員15社が表彰されたほか、「山手センター障がい児・者プログラムの紹介」「いのちと向き合うー災害と東京YMCAの歩み」など、東京YMCAの働きを各担当スタッフが報告した。

●2008年度のあゆみ

4月10日 第595回午餐会
「公務員生活を終えて考えること」
（弁護士・東京女子大学理事長
原田 明夫氏）

5月22日 第596回午餐会
「ICU 献学の理念とそのたどった道
～第1期卒業生として～」
（東京YMCA理事長 茅野 徹郎氏）

6月24日 第597回午餐会
「『チャーチルに愛された日本』と外交」
（ノンフィクション作家 関 榮次氏）

7月24日 第598回午餐会
「老いの旅路」
（社会福祉法人新生会理事長
鈴木 育三氏）

8月25日 第599回午餐会
「荒れ野に公平が、園に正義が
ーパレスチナの女性たちの願いー」
（恵泉女学園大学名誉教授
石井摩耶子氏）

9月24日 第600回午餐会
「グローバル公共哲学の地平」
（東京大学教養学部教授 山脇 直司氏）



10月24日 第601回午餐会
「宣教150周年
ーなぜ1%を超えられないかー」
（聖学院大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学科長
古屋 安雄氏）

11月28日 第602回午餐会
「救世軍社会鍋の起こりと
その現代的意義について」
（救世軍日本司令官 吉田 眞氏）

12月11日 第603回午餐会
「クリスマスの成り立ち」
（日本聖書神学校校長 今橋 朗氏）

1月23日 第604回午餐会
「中朝国境に行く
～脱北者増加の経緯と展望～」

2月25日 第605回午餐会
「ハンセン病療養所は、今」
（日本キリスト教団教務教師
社団法人好善社理事長 棟居 勇氏）

3月19日 第606回午餐会
「予防医学・公衆衛生における疫学の役割
ー循環器疾患を中心にしてー」
（社会福祉法人日本伝道医療会
衣笠病院院長 橋本 勉氏）

●総括

2008年度は、東京YMCAの会員・スタッフ・ユースに対して「国際」の認知度を高め、「YMCA国際ネットワーク」を有効に活用し、特にユースが成長する機会となる国際事業を展開することを目標とした。

年度始めの5月に起きたミャンマーでのサイクロン、中国四川省での地震に対する支援募金では、各センターにも積極的に支援アピールのための情報を提供し、国際協力募金活動でも、子どもの向けの教材の開発など、YMCAの国際協力募金への理解を促すことに努めた。

海外派遣においても、野外活動リーダーをワークキャンプへ派遣することで、所属センター全体の国際協力活動への関心を高めることができた。今後もより多くのユースボランティアリーダーの派遣を実現したい。

パートナーシップでは、バングラデシュYMCAの加盟停止により交流の再開ができなかったものの、北京・ソウル・ハワイ島の各Yとはスタッフの研修やプログラム交流などを行い、今後のプログラムの発展が期待できる。



●特筆すべきプログラム

中国・四川省大地震に対し、100万円を超える募金が寄せられ、2009年度夏に、北京・ソウル・東京の3YMCAが合同で四川省でのワークキャンプを行うことで合意がなされた。

・2007年度に続き、若手スタッフを北京Y・ソウルYに派遣した。参加したスタッフより、今後の協力・交流のあり方など、積極的な提案がなされた。

・南センター野外ユースリーダーのインドネシア・ニアス島ワークキャンプへの派遣をきっかけに、中越沖地震被災地へのリーダー派遣やスキーキャンプへの受け入れ、街頭募金への取り組みなどを活発に行った。

・杉並区より日韓中高生交流のプログラムの運営委託を受けた。日韓情勢により実施には至らなかったが、その後のフォローアッププログラムや2009年度の委託などに繋げることができた。

・ハワイ島YMCAとの交流を、子ども英語プログラムとのクリスマスカードの交換により再開することができた。

・開発教育協会への協力として、「開発教育教材フェスタ」へ社会体育・保育専門学校の校舎を利用してもらった。

●2008年度のあゆみ

4月28日～5月4日

東京災害ボランティアネットワーク・ニューオリンズ視察派遣

4月29日 高石ともやチャリティーコンサート

7月5～14日

YMCA世界大都市会議(ニューヨーク)・フロストバレー訪問

8月7～25日

フロストバレー・ダイナミックサマーキャンプ

9月13日 国際協力一斉街頭募金

10月3～8日

北京Yへスタッフ研修派遣

10月6～10日

ソウルYへスタッフ研修派遣

10月17日 日本ザンビア医学協会総会

10月19日 中越沖地震被災児童支援デイキャンプ

12月6日 国際部クリスマス祝会

2月27日 「愛と平和のチャリティーコンサート」(明治安田生命)

●総括

2008年度も江東幼稚園との協力関係をさらに強化し、地域に根ざしたセンターとして歩むことができた。特に「江東親睦会」では約600名、「江東バザー」では約2000名の来場者があり、コミュニティーセンターに関わる人々との絆をさらに深めることができた。またこれらの運営については、館内ポスターやチラシ等でボランティアの募集を常に呼びかけ、新しいリーダーシップを加えながら進めることもできた。

国際協力募金やチャリティーランへの取り組みも、幼稚園と共に協力しながら行った。今後も地域、幼稚園、ワイズ等と協力をしながら、さらに地域に根ざした活動を展開していく。



●特筆すべきプログラム

・東京江東ワイズメンズクラブ協力のもと、会員や幼稚園保護者有志で、園児が使う木製の椅子を作った。また外壁のペンキ塗りも同時に行った。

・花の植え替えや手入れについては「ガーデニングボランティア」を募り、定期的に活動を行った。

・インターナショナル・チャリティーランへ江東で2チームを組織し、参加した。参加費については、江東ワイズメンズクラブをはじめ「館内募金活動」を展開し、集めることができた。当日は揃いのTシャツを着用し、会員や保護者、園児など約70名がランナーや応援で参加し、プログラムを楽しむことができた。

●2008年度のおゆみ

- 5月11日 深川八ヶ町子ども運動会
- 5月17日 江東親睦会
- 9月6日 館内ワーク作業
- 9月23日 チャリティーラン江東2チーム参加



- 11月2日 江東バザー
- 11月23日 ワイズカップサッカー大会
- 12月13日 子どもクリスマス
大人クリスマス
- 2月15日 ピアノ教室発表会
- 2月28日 江東・国際協力街頭募金
(錦糸町駅前)
- 3月7日～15日
創作教室作品展



●総括

2008年度は東京YMCAミッションを基軸に、スタッフが常に参加者と対面できるスペースの確保、担当スタッフの写真入りポスターの掲示、プログラム参加者とYMCAとの架け橋を大切にしたいロビーワークを通してプログラムの価値を参加者へ伝えるべく、山手会館内の各部門との連携を強化しながら多様なプログラムの運営を行った。

特に通年およびシーズンプログラムでは、山手コミュニティーセンターの総合力を生かし、各部門プログラム、野尻キャンプ、妙高高原ロッジをサポート。事業部間を横断的に行き来し、センターの総合力を高めた。

9月には東京山手ワイズメンズクラブの協力を得て「山手学舎支援コンサート」が開催され盛況であった。また、3年目となる地域協力プログラム『わくわくサロン』は、年間で約250人余りが参加された。会員と地域住民とが協力しあい、老若男女が集い憩う場としての活動へと成長を続けている。



●特筆すべきプログラム

・地域協力プログラム『わくわくサロン』は、その活動が認められ、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会ふれあいのまちづくり事業より助成を受けた。

・ボランティアリーダーのスキー技術・指導技術向上のため、妙高高原ロッジで山手リーダーズキャンプを初めて実施。山手バザー収益金、チャリティーラン支援金より助成を受けた。

●2008年度のおゆみ

- 4月1～3日 春の工作スクール
- 6月8、14日 夏プログラム参加希望者説明会
- 7月19日～8月27日 夏季シーズンプログラム
- 9月11日～25日 跡見学園女子大学 インターン受入
- 9月16日 チャリティーコンサート
- 9月27日 ピアノクラス発表会
(於：在日本韓国YMCA)
- 10月11日 冬プログラム参加希望者説明会
- 10月19日 山手会館バザー



- 10月20日 国際協力募金活動として北海道物産販売
(じゃがいも、あずき等)
- 12月7日 山手会館クリスマス
- 12月26日～1月6日 冬季シーズンプログラム
- 1月10日～12日 スキー合宿Ⅰ
- 2月6日～8日 ファミリースキーキャンプ
スキー合宿Ⅱ
- 2月26日～28日 山手リーダーズキャンプ
- 3月26日～30日 春季シーズンプログラム

●総括

山手センターのスイミングクラスは子ども中心のクラスが特徴的だが、成人クラスでは70歳～80歳後半の高齢者が多く在籍し、元気に体を動かしている。

子どものクラスは、少人数制での水泳指導が強みであり、また水深が浅いので、水を怖がる子どもたちも安心して楽しくプールに入ることができる。2008年度は、より丁寧できめ細かい水泳指導を心がけた。

子どもの体操教室では、通常クラスをはじめ、夏季・春季短期体操教室ともキャンセル待ちになるプログラムとなった。

また、国際協力募金の一貫としてのチャリティーイベント、水の安全キャンペーン、プールクリスマス会、クリスマスチャリティーバザーなど、YMCAの特色を活かしたプログラムを実施した。

●特筆すべきプログラム

・夏休みには、「父と子のキャンプ」「水泳合宿」「短期水泳教室」「サマースクール」「体操教室」「水中運動」(成人対象)、通常クラスキャンセル待ちプログラムを中心に、延べ980名の参加があり、延べ100名のスタッフとボランティアリーダー、実習生が関わり、子どもたちにとって大きな成長が見られた季節となった。

・調布市立小学校の夏季臨海学園に水泳指導員を派遣した。20校・約1500名の小学生が集い、水泳指導や夜のプログラム等で指導員が活躍した。

・短期体操教室では、縄跳びが苦手な子どもたちを対象に、「縄跳び特訓」クラスを新たに開講した。

・春～秋の「父と子のキャンプ」を冬季にも実施し(於：山中湖センター)、親子でワカサギ釣りなどを楽しむことができた。

●2008年度のおゆみ

4月1～3日	3DAYS スクール
7月1～7日	七夕週間
7月9～15日	水上安全週間
7月17日～8月23日	夏季プログラム
7月19～20日	父と子のキャンプ
8月10～12日	水泳合宿
8月20～21日	全国YMCA少年少女水泳大会
10月19日	山手センターバザー
12月1～6日	プールバザー
12月26～30日	冬季プログラム
1月31日～2月1日	父と子のキャンプ
3月20日	プール体験会
3月18～30日	春季プログラム

●総括

昨年度より見直した保育時間及び保育料金に加え、2008年度は開所時間を早め、保育時間も拡大、一時保育も新たにスタートさせた。それに伴い料金設定も一律にするなど、様々な背景を持つ保育児に対して門戸を広げることができた。これにより、結果的に安定した参加者が与えられた。

多くの行事を通して、家族の絆や保護者同士の交流、保育士との関係を深めた。また、新たに新宿区保育課補助金を得て、保育者研修を実施することができた。保育士にとっては新たな学びの機会が与えられ、資質向上に繋がった。

さらに授業の一環として、社会体育・保育専門学校および国際ホテル専門学校から、実習生として学生を受入れた。また将来、保育に従事する希望を持つ学生ボランティアの受け入れも積極的に行った。



●特筆すべきプログラム

・昨年度から実施している、社会体育・保育専門学校および国際ホテル専門学校からの、実習生受け入れも安定し、保育児の保護者からも良い評価を受けた。

・定例のプログラムとして、毎月お誕生会や避難訓練、身体測定を実施し、保育内容を充実に努めた。

・語学教育センターの協力を得て、保育時間内に日常英語のレッスンを導入した。保育児の保護者からも高い評価を受けた。

●2008年度のあゆみ

4月 1日	新年度の集い
4月 19日	保育懇談会
5月 18日	春の健康診断
5月 17日	親子遠足



6月9～13日

	個人面談
10月 7日	参観日
10月 16日	秋の健康診断
10月 19日	山手バザー出店
11月 21日	収穫感謝祭
12月 6日	クリスマス会
2月 3日	まめまき
2月 7日	保育懇談会
3月 7日	成長を祝う会



●総括

季節プログラムでは新しく「イングリッシュデイキャンプ」「イングリッシュスノーキャンプ」「スプリングデイキャンプ」を行い、季節毎に屋外へ出て英語を話し、身近に活用できる環境を整えた。また「イングリッシュアートコース」「ドラマコース」など、英語を勉強するだけでなく、手段として使うプログラムを展開した。まだ定着へとは至っていないが、今後は幼児から小学生まで幅広い層からの参加を見込めるようさらに内容を充実させていく。また、季節プログラムからレギュラークラスへも参加者が移行しており、良い傾向が見られた1年となった。

日本語・韓国語クラスは小さい規模ながらもコンスタントに開講できた。次年度は、韓国語入門・初級クラスなどの増設へと導きたい。

●特筆すべきプログラム

- ・帰国生クラスを新たに2クラス開講し、生徒数が増加した。
- ・子ども向け季節英語プログラムを昨年度より増設し、定員を確保した結果、子どものレギュラークラスへとつながった。
- ・子どもクラスハロウィンパーティーでは近隣のお店に協力していただき、講師、スタッフ、受講生で『Trick or treat』を行い、保護者から好評であった。
- ・11月に語学クラス受講生・語学プログラム参加者へ向けたイングリッシュデイキャンプを実施。サービスの向上を目指した。
- ・クリスマス祝会は、保護者の方にも協力をいただき、礼拝と英語のゲームなどを行った。
- ・1月10～12日に「イングリッシュスノーキャンプ」を実施。少人数であったが、参加者から好評価を得た。

●2008年度のおゆみ

- 4月 8日 春期開講
- 6月17日～21日 成人クラスコーヒーブレイク
- 6月 2日～7日 幼児・小学生クラス授業参観
- 9月25～29日 学期末クラスパーティー
- 7月～8月 夏期子どもプログラム
- 9月29日 春期終了
- 10月3日・10日 小学生クラス保護者面談
- 10月15日 秋期開講
- 10月28日～11月1日 ハロウィンパーティー



- 12月2日～9日 成人クラスコーヒーブレイク
- 12月13日 子どもクリスマス会
- 12月20日～22日/26日～28日 冬期子どもプログラム
- 1月21日～26日 小学生クラス授業参観
- 1月28日～2月9日 子どもクラス保護者面談
- 3月17日 秋期終了
- 3月20日～22日/26日～28日 春期子どもプログラム

●総括

YMCA運動の一つである「山手学舎」は、キリスト教主義に基づく大学生寮として、1954年に設立され、これまでに210名を超える人材を輩出してきた。山手学舎は、単なる寮生活ではなく、学生自身が自治運営をしている。人との関わりが希薄な現代社会において、経験しにくい共同生活の場であり、夢や希望を持った若者が勉学に励み、またYMCA青少年プログラムへのボランティア活動にも参加している。

2008年度は14名の舎生が、OB、山手学舎後援会の支えもあり、充実した寮生活を過ごした。東京山手ワイズメンズクラブからの援助もあり、多くの方々のサポートに感謝しながら寮生活を過ごす1年となった。

学舎は入舎生からの舎費を中心とした独立採算運営方式を導入しているが、舎費で賄えない部分は後援会が支援を行い、積極的な運営を行っている。

次年度は設立55周年の節目の年となる。

●特筆すべきプログラム

・9月16日に山手センターで学舎支援チャリティーコンサート（主催：東京山手ワイズメンズクラブ）が開催され、収益金が山手学舎後援会に贈呈された。

・「舎生懇談会」（毎月1回）の実施。

・「聖書研究会」（毎月1回）の実施。日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会の古賀公一牧師を招き、基本的な生き方を学び、活かしていくことを目標に行っている。

・近隣の信愛学舎、友愛学舎と「三学舎交流会」を毎年実施し、スポーツ大会などで交流を深めている。今年初めて、山手センターに三学舎の舎監が集まり、情報の共有を行った。

・新入舎生との交流を深めるイベント「学舎旅行」（於：那須高原）では、バーベキューやハイキングなどを楽しんだ。

●2008年度のあゆみ

5月20日 入舎式
4月26日～27日 学舎旅行
5月11日 学舎旅行



9月13日 国際協力街頭募金へ参加
9月16日 学舎支援チャリティーコンサート
9月23日 チャリティーランへ参加
10月19日 山手センターバザーへ参加
11月15日 後援会総会／学舎OB会総会
12月14日 忘年会
3月21日 退舎式



●総括

昨年の新しいオープンスペース10周年に続き、今年度はチャリティコンサート、URA-libyが、無事10周年を迎えることができ大きな成果であった。また前年度に引き続き、新宿区との協働事業を実施した結果、青年層が増加し、年齢の幅が広がってきている。

組織としての今後の方向性も確認することができた。新たな視点での講演会を実施し、「教育」「ベーシックインカム」等を考えていく下地ができた。冬休み・春休みには新たなキャンプを計画・実施し、新しいキャンプの展開への見通しを立てることもできた。今後こうした運動的な働きを、liby工房（ファブリーク）というアントニオ・ネグリの言葉を使って総称し、積極的な運動を展開していく予定である。

さらに、フリースクール全国ネットワークとの関係も、日本フリースクール大会や全国フェスティバルのライブ実施に協力することで、これまで以上に深めることができた。

●特筆すべきプログラム

・連続講座「教育について考える'08開催」子どもたち、若者たちが一方的に与えられる「学び」から逃走し始めている、という実感は私たちにもあり、「学び」のイメージも変わり始めているのではないか。libyは、多くの仲間と一緒に、もう一度教育の原点に立ち返って、様々な角度から「教育」について考え、その延長線上に、新しい教育の形を描き、「教育」の新しい試みへとつなげていければと考える。

・シンポジウム「若者」「貧困」「自立」長年「野宿者」の問題にかかわってこられた方から、「野宿者」と「ニート」問題のかかわり、「働くということ」をとりまく状況などについてお話を伺った。

・libyチャリティコンサート

多くの方々のご協力とご尽力により、10年を迎えることができた。ここに来るまでにはいろいろなプロセスがあったが、ワイズメンズクラブが生まれ、全面的にご協力頂けたことが何よりの力となった。年々、企業からの支援も増え、開始当時から考えられないくらい大規模なイベントに育てていただいた。

●2008年度のあゆみ

- 6月11日～14日
香港YMCAスタッフ研修
受入れ
- 6月26日 「教育」連続講座プレ企画実施
- 7月12日 子どもと医療を考える会
- 7月21日 夏の体験ボランティア事前研修会
- 8月1日～3日
全国ユースフォーラム協力
- 9月19日 対談『自立すること 働くということ』
- 9月23日 シンポジウム「子ども問題」を再検証する
- 10月10日～
連続講座「教育について考える'08」
- 10月11日 じゃがいも配達アルバイト
- 11月13日 助成金目録授与（モバイルファン
ド）
- 11月21日 反貧困たすけあいネットワーク
1周年イベント協力
- 1月11日～12日
日本フリースクール大会協力
- 1月31日 FS全国フェスティバルライブ
コンサート
- 2月15日 シンポジウム「若者」「貧困」
「自立」
- 2月15日～16日
URA-liby10周年
- 3月 7日 第10回libyチャリティー
コンサート

●総括

杉並センターは、現在は、建物としての拠点は持たないが、会員の熱意により、会員主体のセンターとして地道に活動が続いている。「妙正寺フィットネス」「ひだまり体操クラブ」「WHO」（ウォーキング・ホリディ・荻窪）「バザー」「クリスマス会」などのプログラムが柱となり、全て会員によって運営され、マネージメントがされている。いわば、東京YMCA内のスタッフレスYMCAと言う様相であるとも言える。こうした会員による地道な活動の継続が、杉並YMCAの働きとして地域に根付いている。

特に今年度は、杉並センターが山手センターに統合されて10年という節目の年であったため、久しぶりに会員相互の交流を図るべく、山中湖センターでキャンプを行った。約60名のリーダーOBOG、その家族、ワイズメン、会員が集い、大変楽しいひとときを過ごすことができた。何人かのキーマン独自のネットワークで、東京のみならず、様々なところから集まってくれたことは、感謝であった。

●特筆すべきプログラム

- ・妙正寺フィットネス（毎週木曜日）
- ・ひだまり体操クラブ（ほぼ毎週水曜日）
- ・WHO（毎月1回）

●2008年度のあゆみ

- 9月20日～21日
杉並センター交流山中湖キャンプ
- 11月30日
杉並バザー
(うえるふえすた2008へ出展)
- 12月18日
杉並クリスマス



●総括

成人メンバーは減少傾向の中、テニスやスカッシュなどの講習会の人数が増加してきている。少年クラスは前年に比べ、人数が減少傾向にあり、特にフロアクラスがその要因となった。

高齢者プログラムは、昨年に続き、「羽村市地域支援事業」を受託した。今年度はボランティア養成を終えた方を対象とした、「介護予防運動教室」も新たに受託。また、地域高齢者に対して、5つの江東区社会福祉館で、「健骨・健脳体操」のプログラム指導を行った。

●特筆すべきプログラム

・練馬区の中学校34校（約3900名）の生徒に臨海学校の指導を行った。

・今年度より中央区の小学校の臨海学校を受託し、16校（約880名）の指導を行った。

・社会体育・保育専門学校の学生を対象に、『YMCAこつこつゆうゆう介護予防プログラム』の指導者養成講習会を開催した。



・コミュニティー活動は、地域ネットワーク作りを主眼として展開した。その1つとして「災害体験コーナー」を地域の企業、町会、消防署、消防団の方々と一緒に、12月のクリスマスオープンハウス時に実施した。事前のミーティングを重ね、起震車、煙、AED体験などに地域の方が多く参加し、防災意識を高めることができた。

●2008年度のおゆみ

4月1日～3日

こつこつゆうゆう指導者養成講習会

4月10日

チャリティーゴルフ大会

7月9日～15日

水上安全キャンペーン

7月27日

軽度発達障がい理解と支援講演会

8月20日～21日

全国YMCA少年少女水泳大会



9月23日

インターナショナルチャリティーラン

11月5日

軽度発達障がい者セミナー

12月6日

軽度発達障がい者セミナー

12月23日

クリスマスオープンハウス



1月17日

軽度発達障がい者セミナー

2月7日

軽度発達障がい者セミナー

2月11日

東日本YMCA少年少女水泳大会

2月28日

陽春の集い

●総 括

東陽町YMCA保育園（東京都公認認証保育所：0～2歳児、定員数30名）では、キリスト教保育に基づいて、「今のときを喜びをもって生きる」を土台とした保育を実施してきた。江東区では認可園・認証保育所が新設される中、継続的に待機児童が発生しており、今年度も当園では弾力化による定員増（6名）を実施した。江東区には外国籍の住民も多く、当園の園児も多様であったが、日本語の分からない方も安心して預けることが出来るよう努めた。

また初めて、隣接する特別養護老人ホーム江東ホームを3回訪ね、お年寄りと園児が交流する機会を持った。日頃子どもだけで過す時間の多い在園児にとって、とても良い経験となった。今後も地域への働きかけをさらに広げていく。

●特筆すべきプログラム

・子育て支援プログラムとして、「ほっとするコーヒーやさん」（お迎え時の保護者同士のふれあいの場）を月に2回行った。参加費として1回100円をお預かりし、国際協力募金に協力していただいた。園前のホールに場所を移した回もあり、卒園児や入園希望者の参加もみられた。今後も積極的に呼びかけをし、保育園利用者や地域の方々、入園希望者に交流の場を提供していく。

・「ふれあいDAY」ではプログラム終了後保護者と簡単な昼食をとった。初めての試みであったがほとんどの方が残って参加し、保育者と家族の親睦を図ることができた。

・「教育シンポジウム」開催時に0歳児から2歳児までの託児を請け負った。

●2008年度のあゆみ

4月 1日 保育開始（導入保育開始）
4月 5日 入園・私園式
5月17日 保護者会
9月 5日 非常災害時引取り訓練
10月2日 ふれあいDAY
10月11日 入園説明会
10月15日～31日 個人面談
11月8日 入園説明会・保護者会
11月19日 収穫感謝祭
11月29日 教育シンポジウム
12月19日 クリスマス礼拝・祝会
12月23日 クリスマスオープンハウス
1月23日 運営委員会
2月21日 入園説明会
3月22日 成長を祝う会

*「ほっとするコーヒーやさん」

5月23日／6月6日・20日／7月4日・
18日／8月1日／9月17日・21日／
11月21日／12月5日・19日／1月
9日／2月6日／3月6日

●総 括

【南コミュニティーセンター】

We build strong kids, strong families, strong communities を骨組みに、1 歳児の子どもからシニアの方々へ様々なプログラムを提供している。家族を対象とした秋の「ファミリーフェスティバル」や夏の「ファミリーキャンプ」も定着をし、次のステップのプログラミングが期待される。また多くのプログラムはリーダーや会員と共に展開をした1年であった。



【東京町田YMCA】

オフィスを持たない拠点ではあるが、全てのプログラムは地域密着であり、今年度も会員主体で展開した。新しい人材の発掘と新しいプログラム開発に力を注ぎ、近隣の大学に足を運び、先生方と友好的な関係を持ちはじめた。

●特筆すべきプログラム

・南コミュニティーセンター、東京町田YMCA、都民教会（下北沢）でそれぞれ行われている歌声サロンでは、5月に合同バスハイクを行った。高尾の森わくわくビレッジにシニアの方々を中心とした参加者が集い、約100人の歌声が広場や山々に響きわたった。またバードウォッチング等も行い、楽しいひとときを過ごすことができた。帰路のバスの中では、すでに次年度開催へ期待の声が多く聞かれる程、「歌声サロン（ひろば）」は地域のたくさんの人々に広く愛されるプログラムとなっている。

●2008年度のあゆみ

- 5月14日 歌声サロン（経堂・町田・下北沢）
合同バスハイク
- 6月 3日 夏季キャンプキックオフ
- 6月13日 「大すずらん会ライブ」
（世田谷区社会福祉協議会）
- 10月18日 すずらん会商店街まつり
- 10月26日 バザー
- 10月28日 冬季スキーキャンプキックオフ
- 10月31日 ハロウィンパーティー
- 10月（毎金曜日）
第14回ベテランティアフォーラム（町田）
- 11月30日 ファミリーフェスティバル



- 12月13日 世田谷・目黒子どもクリスマス会
- 12月13日 東京町田YMCA市民クリスマス会
- 2月 3日 春季スキーキャンプキックオフ
- 2月14日 国際協力街頭募金（経堂駅前）

- * ユーモアスピーチ講習会（第2木曜日）
- * 歌声ひろば（町田／第2土曜日）
- * わくわく科学実験教室（町田／第3土曜日）
- * YMCAすずらん会（第4金曜日）
- * Yわい会（町田／毎火曜日）

●総括

知的障がい児・者を対象としたプログラム、LDおよび周辺児支援プログラムについては、引き続き高いニーズを保っている。健常児の活動は幼児活動が好調であった。

地域諸団体との協働プログラムについては、武蔵野・三鷹地域超教派プログラム「0422クリスマス」の事務局を担った。また社会教育委員の会（国立市）への参加や、羽村市での介護予防教室へのスタッフ派遣などの協力を引き続き行った。

会員活動では、ファミリーフェスティバルが90名を越える参加者を集めたほか、ファミリークリスマスなどを開催した。

昨年から取組んだ音訳ボランティアの勉強会は新しい層の参加者を開拓し、12回を行うことが出来た。



●特筆すべきプログラム

・サマーキャンプ・ハローイングリッシュcampでは、アメリカ大使館の協力を得て、新たに5人のネイティブスピーカーを招いて実施することが出来た。

・昨年度から始めた「音訳ボランティア勉強会」は国立あおやぎ苑や八王子盲学校と連絡を取りながら、12回の勉強会を行うことが出来た。

・障がい児・者プログラムへの企業からの寄付等が充実し、寄付・助成金・協働事業収入の総額が収入の約10%を超えた。昨年度から始めた「障がい児・者のためのスキーリーダートレーニング」では、西東京センターがその中心を担った。

●2008年度のおゆみ

- 4月12日～13日
ユースジャンボリー
- 4月17日・5月21日・6月12日
ボランティアリーダー説明会
- 5月3日～5日
リーダーズキャンプ
- 6月23日～24日
実技リーダートレーニング
- 7月～8月
サマープログラム
- 9月7日
サマープログラム報告会
- 9月27日
ボランティアリーダー説明会
- 10月4日
バリアフリーマップ実地踏査会



- 11月3日
ファミリーフェスティバル
- 12月6日
西東京センタークリスマス
- 12月13日
0422クリスマス
- 12月18日～21日
スキーリーダートレーニング
- 12月26日～30日
ウィンタープログラム
- 2月21日～22日
スキーリーダートレーニング
- 3月23日～25日
スプリングプログラム1
- 3月26日～30日
スプリングプログラム2

●総 括

昨年度創立10周年を迎え、今年度は新たなスタートになる年であった。年度当初の保育士の入れ替わりも無く、充実したスタッフ体制で運営することができた。

発達に障がいを持つ園児を受け入れ、他部署の協力を得たスタッフ研修や、世田谷区子ども家庭支援センターなど、行政の関係機関との連携も持ちながら保育を進めることが出来た。園児数では前年度卒園クラス（2歳児）が10名いたこと、また1歳児クラスが4名と少なかったが、4月末には20名の定員に達した。

11月には卒園・在園児保護者、地域諸団体、地域商店街、ワイズメンズクラブの協力を得て、「YMCA親と子のハーモニーコンサート」を開催し、地域の中での働きを広げることが出来た。

●特筆すべきプログラム

・11月15日に「YMCA親と子のハーモニーコンサート」を実施した。6月より卒園児・在園児保護者と実行委員会を組織し、企画、出演者依頼、広報、チケット販売、当日の運営など全てにわたって保護者の多大な協力を得て行うことが出来た。これまで学生ボランティアの受け入れ等で関係を築いてきた玉川聖学院からは会場提供を、地域商店街からは、ポスターの掲示や協賛広告へのご協力を、東京世田谷ワイズメンズクラブ、東京南ワイズメンズクラブからは寄付金のご協力をいただいた。当日はプロの声楽家を迎え本格的かつ子どもたちにも楽しめる内容で、卒園児・在園児とその家族、近隣の多数の親子に会場いただき、来場者総数700名を超える盛会となった。コンサートの収益金の一部はチャイルドケアセンターの備品購入および今後のコンサート実施に充てることとなった。

●2008年度のあゆみ

4月 5日 入園・始業礼拝
5月 9日 保護者会（1・2歳児）
6月16日 保護者会（0歳児）
6月23日～7月4日 保護者保育参加
7月20日 フェスタ・デ・すいかわり
8月30日 クリーンデイ
9月29日～10月10日 個人面談
10月4日 プレイデイ
10月17日 保護者会（1・2歳児）
10月21日 園外保育（2歳児）
10月31日 保護者会（0歳児）
11月15日 YMCA親と子のハーモニーコンサート
11月18日 収穫感謝礼拝
12月20日 クリスマス礼拝
2月 6日 全クラス合同保護者会
2月17日 園外保育2歳児
3月20日 成長を祝う会

●総 括

学生募集については、昨年度と比較し、全体で28名減少した。ホテル科は37名少なく、高校生の大学進学率が加速していることが伺える。1年制のホテル実務科（フリーター対象）については、景気後退の影響か昨年より12名増加した。

就職状況については、希望者に対し97%の内定率を達成した。4月～7月はホテル業界の業績が良好だったため、例年並の内定率となったが、09年度は非常に厳しい環境が予想される。

9月13日に渋谷で行われた国際協力一斉街頭募金には200名の学生が参加。また、山手コミュニティーセンターの活動にもユースリーダーとして参加したことは有意義なことであった。

●特筆すべきプログラム

・ル・コルドンブルー東京校での「調理実習」授業を開始。

・ホテル業界専門出版社・オータパブリケーションズとの共催プログラム「宿屋大学」で、新たに特別講座として4講座実施。

「ロジカルシンキングセミナー」「グローバルホテルマネジメントゼミ」「キャリアチャレンジワークショップ」「ユニフォーム会計導入ゼミ」約100名の参加者を動員。

・日本ケアフットサービス協会と提携。必修科目である「手話」の講義に継続的に講師派遣を依頼し、実施の運びとなった。今回から、ろうあ者の方による授業が開始された。

・ホスピタリティ推進協会との提携。必須科目「ホスピタリティ理解講座」のカリキュラム作成と安定的な講師派遣を依頼、実施される。

●2008年度のおゆみ

- 4月 3日 入学式（日本キリスト教団 霊南坂教会）132名が入学
- 4月9日～10日 新入生オリエンテーション合宿
- 4月14日～7月9日 1学期授業
- 5月 7日 球技大会
- 7月17日～8月28日 企業実習（専攻科・実務科）
- 8月31日～9月3日 野尻湖スポーツ合宿
- 9月8日～12月2日 2学期授業
- 9月13日 国際協力一斉街頭募金
- 9月16日～11月25日 前期企業実習（ホテル科）



- 11月26日 立食パーティー
- 12月4日～18日 ヨーロッパホテル・観光研修旅行
- 1月7日～2月18日 3学期授業
- 2月23日 実習報告会
- 2月24日～26日 学内就職セミナー
- 3月19日 卒業式（霊南坂教会）109名が卒業
- 3月19日 卒業謝恩会（ホテルニューオータニ）

●総 括

2008年度は大学全入化時代を受け、過去5年間の中で最も学生募集に苦慮した年となった。2009年度生募集に関しては、前年比21%増となっているが、時代のニーズにあわせ、体育科では「スポーツトレーナー養成コース」の強化を行い、アスレチックトレーナー、健康運動実践指導者等の資格取得を目指すカリキュラムの再編を行った。保育科においてもYMCA保育施設での実習等連携力の強化を行った。

卒業生の活躍として、北京オリンピックでの女子柔道選手の帯同トレーナーや女子水泳チームのコーチ参加など、日本チームのために貢献した。

学生の就職状況は、体育科85%以上、保育科90%の就職率をあげることが出来た。

●特筆すべきプログラム

・プロバスケットボールチーム「東京アパッチ」の連携校（インターンシップ）としてトレーナー実習の派遣等を行った。

・JEF市川千葉より講師を招き集中講義を行った。

・保育科幼児教育コース卒業生は2008年度より保育士資格だけでなく幼稚園教諭2種免許付与がなされた。

・近隣の子どもたちへの子育て支援「にこにこにっこり会」（保育発表会）が行なわれ、盛況であった。

・日本知的障害者水泳連盟、東京都専門学校ソフトボール連盟の事務局が本校に置かれた。

・東京都専門学校体育連盟の軟式野球、卓球の各大会での優勝、加えてサッカー・男女バスケットボールの全国大会出場等、クラブ活動の盛んな年でもあった。

●2008年度のおゆみ

- 4月 4日 入学式
- 4月 5日～7日 オリエンテーションキャンプ
(山中湖)
- 4月 7日 授業開始
- 5月 1日 スクールフェスティバル
- 7月 13日～21日
野尻キャンプ実習Ⅰ・Ⅱ
- 7月 24日～27日
集中体験入学Ⅰ
- 8月 29日～31日
集中体験入学Ⅱ
- 8月 30日～9月 2日
保育科キャンプ実習Ⅰ



- 9月 9日～12日
ゴルフテニス実習
- 10月 12日 第1回入試
- 12月 20日 冬期休暇（～1月4日）
- 1月 29日 授業終了
- 2月 12日・13日
卒業研究発表会
- 2月 19日～26日
スノースポーツ実習A・B
- 2月 28日 にこにこにっこり発表会
- 3月 10日 卒業式
- 3月 22日 第8回入試

●総 括

1998年の学校創立より10周年目を迎えた。今年も120名を越える児童の在籍でスタートした。帰国や転校等により、全校のほぼ3分の1が入れ替わり、英語力が初期段階の児童が多く入学した。これに対して、ESLクラス（英語を母語としない子どものための英語教育）の充実化、コンピュータソフトの有効利用、またPTA保護者からのプログラム支援協力も得、全校児童の英語力の向上に努めた。これにより英語力とともに他の教科での学習にも成果が見られた。

T Y I S独自のカリキュラム案がほぼ完成し、次年度はその新計画案に基づいた学校体制を整え、W A S C（米国西部地域学校大学協議会）認定審査を11月に受ける予定である。



●2008年度のおゆみ

4月28日 音楽祭
5月23日 運動会
6月19日 卒業式



6月23日～27日
サマースクール
8月21日 始業式
9月17日 授業参観
10月14日～16日
秋季山中キャンプ
12月17日 クリスマスコンサート
1月19日～22日
スキーキャンプ
2月22日～26日
国際理解週間

●特筆すべきプログラム

・昨年よりメディア教育の充実を図っているが、今年度はPCクラスにとどまらず、各クラス各教科におでもPCを活用し、英語のライティングや語彙力増強のほか、理科・社会などのリサーチなどにも利用した。

・バスケットボールをはじめ、クラブ活動が充実し、他のインターナショナルスクールとの対外試合も行った。

●総 括

2008年度はYMCAの語学教育ミッションを意識し、現場の中に国際教育としてのYMCA英語教育のあり方と理解が浸透してきたことを実感した。英語幼児園、幼児英語から始まり、小学生、帰国生英語クラスへ繋がっていく具体的な流れと方向性が固まりつつあり、東陽町語学教育センターの“世界を見つめた英語教育をプログラムに反映する”というプログラム運営の明確なビジョンが見えてきた1年であった。

キッズガーデン（英語保育幼児園）はYMCAの英語教育とキリスト教保育を理念にカリキュラムの充実を図っているが、コミュニティに浸透するような有効な広報活動に課題が残る。

国際協力募金や各種幼児園イベントを通じ、保護者のYMCA理解を深めてもらうことができた。2009年度もより一層、語学教育を通じた世界の広がりを実践していきたい。

**●特筆すべきプログラム**

・夏季には新規プログラム「Kids' World Reporters」を企画・実施した。教室外で外国人にインタビューをするという実践を通して「英語を使う楽しさ」「英語を使って広がる世界」を実感してもらうことができた。

・帰国生5時間クラスが好調であった。昨今のプリスクールブームと幼児～小学校低学年での帰国子女に人気を集っている。

・「江東区民まつり」（10月）に参加し、地域でのYMCAの語学・国際活動を紹介する機会となった。

●2008年度のあゆみ**【キッズガーデンクラス】**

- 4月 7日 入園式・始業式
- 5月10日 ファミリーピクニック



- 7月11日 インターナショナルデー
- 10月2日～3日 年長お泊りキャンプ
- 11月14日 サンクスギビング（感謝祭）
- 12月12日 クリスマスマュージカル
- 1月15日 餅つき
- 3月15日 卒園式・進級式

【英語レギュラークラス】

- 4月 8日 クラス開講
- 7月中旬 オープンクラス
- 7月下旬～8月下旬 夏季プログラム
- 10月27日 ハロウィンパーティー
- 12月中旬 クリスマス会
- 12月下旬 冬季プログラム
- 3月中旬 学期末発表会
- 3月下旬 春季プログラム

●総括

2008年の夏も多くの学生ボランティア、社会人ボランティアやOBの方々に支えられ大きな事故や怪我がなく夏をすごすことができた。

野尻キャンプでは東京YMCA主催の4つの組織キャンプの展開と、指導者の養成のモデルとなるよう励んできた。特に長期キャンプの必要性と小集団活動の有効性を発揮できるものであった。

簡素な生活を通しての野外教育活動は看護学校や大学などYMCA以外の団体にも受け入れられてきている。



●特筆すべきプログラム

・東京YMCAの社会体育・保育専門学校や国際ホテル専門学校の研修の場として活用された。YMCAの専門学校ならではの体験である。

・今年もOBの方々の協力によりワークキャンプを実施し、階段の補修や樹木の整備をすることができた。

・隣接する東洋英和女学院のキャンプサイト工事が完了し7月5日の記念式が同キャンプサイトで行われた。

・水海道教会のキャンプが20年周年をむかえその記念キャンプが9月に行われた。

●2008年度のあゆみ

- 5月2日～5日 野尻ワークキャンプ
- 6月6日～8日 開荘ワークキャンプ
- 6月13日～15日 リーダートレーニング
- 6月20日～22日 OBワークキャンプ
- 7月26日～8月1日 野尻小学生キャンプ
- 8月1日～7日 野尻きつつきキャンプ
- 8月7日～21日 第73回野尻学荘
- 8月21日～27日 野尻ふくろうキャンプ
野尻CITキャンプ
- 8月27日～31日 あゆみキャンプ
- 9月13日～15日 水海道教会記念キャンプ
- 9月20日～22日 閉荘キャンプ

●総 括

2008年度は通年営業を開始し、山中湖センターや近隣で行えるプログラムをHP上で情報提供するなど、冬季プログラムを試みた年であった。また、山中湖センターのページを全面リニューアルした。センターの情報を多くの方々に知ってもらい、キャンプ・研修・修養会などの活動の場として利用して頂きたいと考えている。

その他の事業として、センターによるプログラム指導の充実を図り、山中湖の自然を生かしたプログラム展開を進めるため、近隣のNPO法人と協働しながらプログラム提供を行っている。今後も山中湖ならではのプログラムを推進したい。

山中湖センター施設整備計画のもと、キャンピング通路補修工事も4月に完成し、車椅子の方も安全・快適に行き来出来るようになった。



●特筆すべきプログラム

・夏季にICCPJ（国際キャンプ研修プログラムジャパン）から台湾の大学生2人をボランティアとして受け入れた。1ヶ月という長期にもかかわらず、利用者との交流も図りながら働きをしてくれた。

・2008年度は冬季も営業を行い、山中湖センターで出来るプログラムとしてワカサギ釣り、そば打ちなど体験プログラムを提供した。

●2008年度のあゆみ

- 4月12日～13日 ユースジャンボリー受入
- 5月3日～5日 プレキャンプ受入
- 6月20日～22日
オール東京リーダートレーニング
- 6月27日～29日
オール東京リーダートレーニング
- 6月13日～15日
フレンドシップキャンプ／手足の不自由な子の
キャンプリーダートレーニング
- 7月 4日 山中保育所キャンプ指導
- 7月5日～6日 山中駐在リーダー研修
- 7月19日 平野保育園キャンプ指導
- 7月25日～29日
山中ビレッジキャンプ



- 7月30～8月3日
第77回山中家族キャンプ
- 8月3日～7日 フレンドシップキャンプ
- 8月7日～12日
手足の不自由な子どものキャンプ
- 10月18日～19日
ソシアス・フォーラム
- 10月25日～26日
インターナショナルキャンプ
- 12月6日 山中湖地域子どもクリスマス
- 12月10日
山中湖子育て支援センタープログラム指導

●総 括

2008年度も大きな事故や怪我がなく無事終えることができた。東京YMCAの研修センターとしてリーダートレーニングやキャンプの受け入れができた。

懸案であった施設の改修工事を無事終了することが出来たことは大きな感謝である。ボイラー・1階の暖房・暖房便座の設置・外壁の補修などが改修された。

この夏にはICCPJのプログラムで台湾より2名の指導者を受け入れた。大変熱心に業務や指導に励んでくれた。

東京YMCAの社会体育保育専門学校やインターナショナルスクール・TYISの研修を受け入れた。団体の受け入れとして、教会、幼稚園、看護学校などに用いていただいた。



●特筆すべきプログラム

・長野市近郊の教会関係の子どもたちを対象としたチャレンジキャンプを、この夏も主催することができた。

・妙高ロッジ主催のお正月の家族スキーキャンプはこの冬も多くのご家族の参加を得て有意義に実施できた。

・リーダーOBがスキーのトレーニング指導の協力をしているが、OBを対象とした指導のためのトレーニングが妙高ロッジで行われた。

・全国YMCAスキー研修会を妙高高原ロッジで受け入れた。

●2008年度のおゆみ

7月14日～19日

森村学園夏期キャンプ

8月9日～11日

主催チャレンジキャンプ

8月15日～17日

南センターファミリーキャンプ

12月26日～30日

山手スキーキャンプ

12月31日～1月3日

ファミリースキー



1月26日～30日

全国スキー研修会

2月6日～8日

山手ファミリーキャンプ

2月27日～3月1日

OBスキートレーニング

3月19日～22日

スキーリーダートレーニング

3月26日～30日

山手スキーキャンプ

●総 括

子どもの豊かな成長を願い「やさしい心」「たくましい身体」「豊かな知性」を大切に育むよう保育を進めてきた。年間を通して、119名の園児を擁し運営することができた。

地域の子育て支援の拠点として、子育て支援活動、園庭開放、子育て情報提供を通して地域との交流を積極的に行った。年間を通して開催した地域の親子を対象にした子育て支援活動「ひまわり城」は、毎回、多くの親子の参加を得ることができた。地域の子育て支援に対するニーズは高く、YMC Aが運営する保育園として、次年度以降も継続的に実施していく。

●特筆すべきプログラム

・地域の子育て支援活動「ひまわり城」を年39回開催し、延べ2645名の親子の参加があった。子どもたちの安全なあそび場として、また母親の情報交換・交流の場として重要な役割を果たすことができた。地域に開放されたプログラムとして定着している。

・東雲第二学童クラブの学童と共に、地域のデイサービスセンターを定期的に訪問し、交流を持った。歌や楽器演奏のプレゼントを行い、利用者に変喜ばれている。

●2008年度のおゆみ

4月 1日	入園式
4月17日	「ひまわり城」開催（木曜日）
4月14日	親子遠足
7月 4日	夏祭り・七夕
8月1日～2日	お泊り保育
9月27日	運動会
10月10日	芋ほり遠足
12月6日	生活発表会



12月22日	クリスマス
1月16日	うどん作り
2月 3日	豆まき
3月 6日	卒園遠足
3月17日	お別れ遠足
3月19日	卒園式

●総 括

江東区東雲・豊洲地区は、例年概ね千名程度の人口流入があり、0歳児から5歳児までの乳幼児人口は増加し、多くの保育園等が新設されてきた。このような環境にあってオリーブ保育園は、ほぼ計画通りの園児を集められたことは幸いであった。

YMCA保育園としての基本理念としてのキリスト教教育を前面に打ち立て、様々な場面で、日本ホーリネス教団木場深川キリスト教会の錦織博義牧師を招聘しお話を伺い有意義な時を持つことができた。また地域活動として、「子育て支援プログラム」では情報発信や施設開放等を行い、多くの評価を得ている。同時に特別養護老人施設芳香園への定期的な訪問・交わりを持ち、異年齢理解との観点から大変有意義な交流となっている。

●特筆すべきプログラム

・YMCA保育園としての、キリスト教理念に基づく保育の実践が、種々の行事の中に見ることができた。

・年長組の山中湖キャンプは、年中から年長へと成長する段階にあって、保育園を巣立って行くための第一歩であると位置付けている。日々、保育園では日常の成長過程の中で保育を実施しているが、親元を離れた中での1泊お泊り保育は行うことによる意義は大きなものがあり、以降の成長に大きな影響を与えるものであると考えている。

●2008年度のあゆみ

4月 5日	入園式・クラス懇談会
6月 7日	プレイデー
7月18日～19日	年長児山中キャンプ
7月25日	夕涼み会
9月 1日	引渡し訓練
10月4日	運動会（於：第二辰巳小学校）
10月23日	お芋掘り遠足
12月 1日	アドベント礼拝
12月13日	年長児クリスマス礼拝 ページェント
12月24日	クリスマス会
1月16日	おもちつき
2月28日	クラス懇談会
3月 6日	お別れ遠足
3月14日	卒園式



●総括

東雲児童館は、江東区から東京YMCAが指定管理者の指定を受け、2008年4月より運営を行っている。放課後の小学生・中学生の遊び場・居場所としての機能だけでなく、午前中は在宅で育児を行っている親を支援する子育てプログラムを盛んに盛んに行われている。小・中学生の来館者数は、前年度に比べ約1.5倍に伸びており、地域との交流事業にも積極的に取り組んでいる。

「YMCAが運営を行うようになってから、多彩なプログラムに参加できるようになり、いろいろな体験ができるようになった」等、保護者からも高い評価を得ることができた。今後は、利用者・地域との信頼関係を構築することを第一に考えながら、子どもたちの健全な育成に取り組んでいきたい。

●特筆すべきプログラム

【小中学生対象プログラム】

- ・こども農村塾（毎月1～2回開催）
児童館にある12畳程の植え込みを利用し、野菜を栽培することで、自然に親しむ機会を増やすとともに「食」に対する興味関心を深めるプログラムである。
- ・フラワーボム（毎月1～2回開催）
季節ごとの花を栽培し、観察記録を残すとともに、種の収穫・配布を通じて奉仕の精神を養い、情操を豊かにすることを願うプログラムである。
- ・自然観察会、Day Camp、一輪車練習会、皿まわし練習会、卓球教室、ソング&ゲーム大会などを行った。

【子育て支援プログラム】

- ・保健師さんの育児相談（毎月開催）
深川南部保健所との連携事業として、保健師や栄養士を招き、気軽な育児の相談会を実施した。

- ・親子でスキンシップ体操

1歳半～4歳の乳幼児を持つ親子対象に、スキンシップを重視した体操クラスを実施した。



●2008年度のあゆみ

- 4月 運営開始
- 5月 「江東こどもまつり」に参加
- 7月 七夕まつり開催（地域連携事業）
- 8月 三番瀬デイキャンプ
夏休み特別プログラム
・ペットボトル工作
・モザイクタイルを使った看板作り



- 10月 ハロウィン（地域連携事業）
- 11月 あきまつり(地域から約人が参加)
- 12月 クリスマス会（地域関連事業）
- 2月 児童会館卓球大会

●総括

東雲学童クラブは、東雲児童館に附帯する施設として江東区から東京YMCAが指定管理者の指定を受け、2008年4月より運営を行っている。小学1年～3年を放課後保育の場として、季節行事の他にも様々な行事を工夫して取り入れ、メリハリをつけた生活を営むことができるよう努力がなされた。

保護者とも毎日の連絡帳への記入や個人面談などを通して信頼関係を築くことに努め、家庭・学校・地域と連携して、一人ひとりの児童と向き合う保育ができた。

館外活動や他の学童クラブとの交流、職場体験の受け入れなども積極的に行い、新たな人間関係の芽生えだけでなく、社会性を養うこともできた。保護者からも高い評価を得ることができている。今後は、地域開発が進む東雲・有明地域の変動にも対応し、子どもたちの健全な育成に取り組んでいきたい。

●特筆すべきプログラム

- ・他学童クラブとの交流会
ドッジボールなどを通じて他の学童クラブとの交流を行い、親睦を深めた。
- ・かえつ有明マーチングバンド部との交流会
地域交流の1つとして、かえつ有明中学・高校を訪問し、数々の大会で高い成績を残しているマーチングバンド部との交流を行った。実際に楽器を演奏させてもらうなど、大興奮の交流会であった。
- ・ハロウィンパーティー
自分たちで衣装を作り、東雲の街を行進した。民生委員さんの協力もあり、「トリック・オア・トリート」も体験。地域交流だけでなく、国際理解を深めるきっかけにもなった。
- ・深川南部地区学童クラブ ドッジボール大会への参加
江東区内の学童クラブが参加するドッジボール大会に出場。競技だけでなく、応援にも力を入れ、全員で参加する大会にすることができた。

・職場体験・実習生の受入れ

中学校3校、高校1校から職場体験を、また専門学校1校から実習生を受入れた。

●2008年度のおゆみ

- 4月 新入生歓迎会
保護者会
- 5月 母の日製作
- 6月 おもしろギネスに挑戦
- 7月 七夕飾り
保護者会
かえつ有明マーチングバンド部訪問
塩見学童クラブとの交流会
観劇会
かえつ有明中学職場体験受入れ
深川第三中学職場体験受入れ
- 8月 おばけやしき
遠足（木場公園）
クラブ縁日
- 9月 引き取り訓練
社会体育・保育専門学校実習生受入れ
- 10月 東雲第三学童クラブとの交流会
個人面談
深川第五中学校職場体験受入れ
社会体育・保育専門学校実習生受入れ
- 11月 遠足
クリーン DAY
勤労感謝の日プレゼントづくり
- 12月 クリスマス工作
クリスマス会・おたのしみ会
- 1月 チャレンジラリー
東雲第三学童クラブとの交流会
- 2月 節分
バレンタインデープログラム
- 3月 記念品製作
ホワイトデープログラム準備
深川南部地区学童ドッジボール大会
遠足（辰巳の森）
お別れ会

●総 括

住所要綱が用いられたため、昨年度に比べ安定した児童数となった。施設のみにて、落ち着いて過ごせる人数ということもあり、事故もなく安全に1年間を過ごすことができた。途中退会も引越しと習い事の2名のみであった。

環境的な問題は解決されていないが、「遠足」「工作会」「お楽しみ会」「がくどうまつり」「季節行事」を取り入れ、メリハリをつけて保育にあたった。

キャナルコート保育園との交流、高齢者施設訪問、まつりへの民生委員招待、中学生の職業体験受け入れなど、地域交流にも活発に取り組んだ。

保護者との信頼関係も築き上げられ、様々な面でご協力いただいた。

●特筆すべきプログラム

・定例行事：誕生会・工作会・おやつデー

・季節行事他：保護者会・保育園交流会・高齢者施設訪問・母の日はがき書き・トライアルゲーム会・個人面談・七夕・観劇会・豊洲遠足・科学技術館遠足・しながわ水族館遠足・がくどうまつり・クリスマス会・カルタ大会・節分・おわかれ遠足・卒室式・利用説明会

●2008年度のおゆみ

4月 1日 歓迎会
5月 7日 母の日はがき書き
23日 お楽しみ会
6月11日～17日
個人面談
トライアルゲーム会
7月 2日 七夕
7月 5日 保護者会
7月24日 遠足
8月 1日 観劇会
8月 5日 お楽しみ会
8月 7日 遠足
8月21日 遠足
9月 2日 引渡し訓練
9月16日～29日
おまつり準備工作会
10月1日 がくどうまつり
12月5日～10日
クリスマス工作
12月25日 おたのしみ会
1月 8日 カルタ作り
1月14日 新春カルタ大会
2月 3日 節分
3月 7日 利用説明会
3月27日 お別れ遠足
3月30日 卒室式

●総 括

設立2年目となり、運営も安定してきた1年となった。保護者の協力と理解を得ながら、子どもたちと楽しい安全な毎日を過ごすことができた。

在籍人数は年間で35名前後（定員44名）、年間申請人数は45名であり、年々微増状況が続いている。7月からは学生ボランティア1名もスタッフの一員として加わった。

地域に根付いていけるようにと在籍児の兄弟姉妹や近隣の児童、卒業した児童へも積極的に声をかけ、外遊びなどでは同じ輪で遊べるように心がけている。「学童クラブ」ではあるが、何かあれば気軽に立ち寄れる場所を目指している。

●特筆すべきプログラム

・夏休み中に遠足3回実施し、お菓子工場へ出かけることができた。

・10月と2月に、オリーブ保育園年長児との交流プログラムとして、ハロウィン手作り仮装行列、お握りを作って食べるプログラムを行った。

・ボランティアスタッフ小山茂美先生による工作会を6回行うことができた。

・1月にはこどもたちの手作りかるたによる「かるた大会」を行い、3月には年明けから希望者で練習してきた劇「ひみつの鍵を取り返せ！」を「3年生を送る会」で発表した。

・10月下旬に深川五中より2名の職業体験の受け入れを、10・11月中旬に1名ずつ、社会体育・保育専門学校の実習生を受け入れた。

●2008年度のあゆみ

4月10日	入学・進級を祝う会
4月22日	保護者会
7月1日	保護者会
7月4日	七夕まつり
7月22日～	夏休み1日保育
8月1日	遠足 観劇会「孫悟空」
8月6日	遠足 ロッテお菓子工場見学
8月19日	遠足 水遊び(江戸川区虹の広場)
10月1日	東雲学童クラブ・東雲第三学童クラブ交流会
10月14日～	個人面談
10月29日	オリーブ保育園交流会・ハロウィン
11月中旬	勤労感謝の工作
12月初旬	クリスマス工作
12月25日	クリスマス会
12月26日～	冬休み1日保育
1月6日	新春の集い
1月21日	かるた大会
2月18日	オリーブ保育園交流会
3月6日	次年度入会説明会
3月24日	3年生を送る会

●総 括

幼児から小学生を対象とした英語クラスは、年度当初から120名を越える生徒を確保することができた。継続率も高く、センターの基幹プログラムとして年間を通して安定した運営を行うことができた。

夏休みに開催した小学生対象「夏休みどろんこキャンプ」は、1泊のキャンプであったがニーズは高く、定員枠を拡大して実施した。

キャナルコート保育園と連携して開催した子育て支援活動「ひまわり城」は、年間を通して多くの参加者があった。母親同士の情報交換、交流の場として利用されており、地域の子育て支援に対する高いニーズを感じた。

**●特筆すべきプログラム**

・キャナルコート保育園と連携し、地域の子育て支援活動「ひまわり城」を年39回開催し、延べ2645名の親子の参加があった。地域の子育て支援に対するニーズに対応するプログラムとして定着している。

・「大人のためのストレッチクラス」を新たに開始した。年度当初は試験的な開催であったが、徐々に参加者も増え、年間を通して定期的に開催することができた。

●2008年度のあゆみ

7月23日～25日

キッズ英語サマースクールA

8月4日～6日

キッズ英語サマースクールB

8月17日～18日

夏休みどろんこキャンプ

12月20日 キッズ英語クリスマス（小学生）

12月21日 キッズ英語クリスマス（幼児）

1月6日～8日

キッズ英語ウインタースクール

- * キッズ英語（月曜日～金曜日）
- * 子育て支援活動「ひまわり城」（木曜日）
- * モダンバレエ「はねウサギ」（水・土曜日）
- * 大人のためのストレッチクラス（金曜日）

●総括

乳幼児から高齢者までが利用できる複合施設（児童館及び高齢者向け福祉会館）として2年目の運営は利用者の増加が顕著であった。年間延利用者数は10万人を越えた。（昨年度93000人）。

小学生：39200人（学童クラブを含む）

乳幼児：21000人

保護者／見学者：26000人

高齢者：11200人

中高生：2700人

年末年始（12/31～1/3）以外は年中無休で開館し、1日平均277名、1ヶ月平均8300名の利用。

近隣の町会・自治会や小学校・幼稚園、民生・児童委員等との連携・協力を活発に行い、おまつり・行事等への相互協力や各種会議・会合等への参加を積極的に行った。これらの成果として、館の主催で実施した「あいぷらまつり」には利用者・保護者に加え、近隣の協力を得て1300名以上の参加者があった。試行錯誤の初年度を脱し、安定運営と独自性の発揮に向けて方向性を探る1年となった。

●特筆すべきプログラム

・乳幼児：日常的な子育て相談が増加し、専門職員がきめ細かく対応している。

・児童（小学生～中高生）：行事やイベントに加えて、日常的なあそびの環境を整備した。

・高齢者：区内他福祉会館と同様の行事やイベントの定着と、館独自の事業として人気が高い東京湾ナイトクルーズやウォーキングを実施した。

・交流：乳幼児・児童と高齢者の交流行事の定着と、日常的・定期的な交流の増加。

・複合施設の一体的運営：こども園との連携の強化、行事（運動会・おまつり等）や日常の運営における相互協力の推進。

●2008年度のあゆみ

5月 5日	子どもの日あいぷらプレイパーク
5月11日	学童親子ふれあいイベント
5月27日	さわやか体育祭参加
7月 5日	学童親子ふれあいイベント
7月25日	学童夏外出
7月25日・26日	芝浦3・4丁目まつり参加
7月～8月	高齢者世帯地域訪問事業
7月31日	施設周辺打ち水プログラム
8月18日～19日	小学校高学年サマーキャンプ
8月18日	高齢者東京湾クルーズ
9月 1日	幼児バスハイク
9月15日	高齢者・児童敬老交流会
10月1日	小学校低学年バスハイク
10月22日～23日	高齢者ほのぼの作品展
11月2日	あいぷらまつり
12月16日	高齢者演芸会
12月24日	年末お楽しみ会
1月14日	新年交流会
3月12日	高齢者バスハイク
3月18日	卒業会

●総括

港区の指定管理者として、こども園（幼保一元化施設）の2年目をすごした。開園時は、0歳～3歳（認可保育園）が定員75名、4・5歳（港区の条例に基づいて幼児教育を行う施設）が、定員100名の合計175名定員でスタートしたが、待機児童受入による弾力化を実施し、定員185名（0歳～2歳児10名増加）の子どもたちを迎えた。

特別保育（長時間保育・一時保育・休日保育）を実施しており、年末年始の4日間以外は開園をし、保護者のニーズに応える保育を担っている。

また、子育て支援事業にも積極的に取り組んだ。月に1回～2回の園庭開放・園内行事・誕生会の参加、港区主催の子育て支援プログラム「みなとっこ」（かかりつけ保育園）、「子育てあんしんプロジェクト」（保健師・助産師・栄養士による相談事業）も港区と協働し、在宅育児の親子の受入園として共に学び合い、育ち合う1年となった。

●特筆すべきプログラム

- ・一時保育の利用者数2,320名
- ・10月12日「みなと区民まつり」に、港区公立保育園15園と共に参加。
- ・1月31日「子育て応援講座」（こども園相談役・元東京家政大学教授 新澤誠治氏）を実施。こども園在園児保護者・在宅育児親子を対象とし、73名の参加があった。地域の子育て支援施設として、共に学び合う機会となった。

●2008年度のおゆみ

- | | |
|-----------|----------------|
| 4月 5日 | 入園式（0～3歳、4・5歳） |
| 4月 7日 | 保育開始 |
| 4月 8日 | 幼児教育開始 |
| 4月 | クラス懇談会 |
| 6月 4日 | 花の日 |
| 6月 6日 | 遠足（4・5歳） |
| 6月16日～27日 | 保育参加（4・5歳） |
| 6月13日 | 遠足（3歳） |
| 7月 7日 | たなばた |
| 7月11日～12日 | 山中湖キャンプ（5歳） |
| 8月29日 | 夕涼み会 |
| 9月 5日 | 引渡し訓練 |
| 10月11日 | 運動会 |
| 11月11日 | 芋ほり遠足（4・5歳） |
| 11月19日 | 収穫感謝祭 |
| 12月13日 | クリスマス会（0～3歳） |
| 12月17日 | クリスマス会（4・5歳） |
| 1月20日 | おもちゃつき会 |
| 2月 3日 | 豆まき |
| 2月14日 | 発表会（4・5歳） |
| 2月24日～27日 | クラス懇談会 |
| 3月 3日 | ひなまつり |
| 3月 6日 | お別れ遠足（5歳） |
| 3月10日 | お別れ会 |
| 3月14日 | 卒園式 |

現 況

会員数

キリスト者	351
一般	595
合計	946

参加登録者数

部署名	青年成人			少年			合計
	男	女	小計	男	女	小計	
江東コミュニティーセンター	0	1	1	189	117	306	307
山手コミュニティーセンター	0	4	4	148	76	224	228
山手コミュニティーセンター・ウエルネス	6	61	67	317	245	562	629
山手コミュニティーセンター・STEP	0	0	0	17	9	26	26
山手コミュニティーセンター・語学	27	51	78	24	38	62	140
山手コミュニティーセンター・学舎	14	0	14	0	0	0	14
liby	25	20	45	7	1	8	53
東陽町コミュニティーセンター・ウエルネス	592	637	1229	917	577	1494	2723
東陽町コミュニティーセンター・東陽町認証保育所	0	0	0	20	16	36	36
南コミュニティーセンター(含む語学)	2	21	23	130	161	291	314
チャイルドケアセンター	0	0	0	11	9	20	20
西東京コミュニティーセンター	73	21	94	136	48	184	278
東雲ファミリーセンター	0	4	4	66	99	165	169
東雲キャナルコート保育園	0	0	0	53	66	119	119
東雲学童クラブ	0	0	0	21	44	65	65
東雲第二学童クラブ	0	0	0	18	15	33	33
東雲第三学童クラブ	0	0	0	17	15	32	32
YMCAオーリーブ保育園	0	0	0	60	53	113	113
国際ホテル専門学校	67	153	220	0	0	0	220
社会体育・保育専門学校	183	176	359	0	0	0	359
TYIS	0	0	0	68	55	123	123
東陽町語学教育センター	0	0	0	125	146	271	271
芝浦アイランドこども園	0	0	0	107	81	188	188
合計	989	1149	2138	2344	1790	4134	6272

現 況

プログラム在籍者数

部署名	会員活動		体育活動		野外活動		語学活動		教養活動		その他		小計		合計
	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	
江東コミュニティーセンター	0	30	0	154	0	53	0	0	1	69	0	0	1	306	307
山手コミュニティーセンター	0	0	67	562	0	224	78	62	4	0	0	0	149	848	997
liby	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	8	45	8	53
東陽町コミュニティーセンター	0	0	1229	1363	0	131	0	0	0	0	0	0	1229	1494	2723
南コミュニティーセンター	0	0	0	5	0	245	23	23	0	18	0	0	23	291	314
西東京コミュニティーセンター	0	0	15	4	72	133	0	0	7	47	0	0	94	184	278
東雲ファミリーセンター	0	0	4	30	0	0	0	135	0	0	0	0	4	165	169
東陽町語学教育センター	0	0	0	0	0	0	0	271	0	0	0	0	0	271	271
小計	0	30	1315	2118	72	786	101	491	12	134	45	8	1545	3567	5112
合計	30		3433		858		592		146		53		5112		

キャンプ参加者数

部署名	件数	メンバー	リーダー	スタッフ
江東コミュニティーセンター	11	295	76	11
山手コミュニティーセンター	19	835	245	25
東陽町コミュニティーセンター	30	857	335	32
南コミュニティーセンター	16	480	190	18
西東京コミュニティーセンター	21	610	287	26
liby	4	71	22	11
合 計	101	3148	1155	123

野外施設利用者数

部署名	実数	延数
野尻キャンプ	20	4623
山中湖センター	5691	11860
妙高高原ロッジ	88	5329
合 計	5799	21812

2008年度 企業・団体との協働プログラム

部署	プログラム名	実施期間	場 所	協働企業・団体	
会員部	第10回懸賞論文 【豊かな福祉社会を創る】	10/31	東京YMCA	財団法人愛恵福祉支援財団	懸賞論文の募集、表彰
国際部	愛と平和のチャリティーコンサート【チャリティーコンサート】	2/27	丸の内MYPLAZA	明治安田生命保険相互会社	会場で寄せられた募金を国際協力募金へ
社会体育・保育専門学校	東京都夏季冒険キャンプ 【都教育委員会委託キャンプ】	8/1～4	高尾の森わくわくビレッジ	東京都教育委員会	小学生を対象としたキャンプ
コミュニティーセンター	秋の山中湖キャンプ 【LD児対象キャンプ】	10/11～13	山中湖センター	三菱商事株式会社	助成金の他、社員ボランティアも合同参加
江東コミュニティーセンター	母と子の自然教室 【母子家庭対象キャンプ】	7/26～29	新潟県塩沢	三菱商事株式会社	社員ボランティアへの運営指導
江東コミュニティーセンター	渋谷区喘息児キャンプ 【喘息児対象キャンプ】	8/7～10	千葉県岩井海岸	渋谷区	運営指導、学生ボランティア派遣
liby	中学卒業後の青年支援対策事業	通年		新宿区	
liby	チャリティーコンサート	3/7	日本基督教団早稲田教会	協賛:ステート・ストリート/三菱商事株式会社/財団法人早稲田奉仕園	
東陽町ウエルネスセンター	中央区臨海学校 【区内中学臨海学校指導】	7/21～8/		中央区	指導教員の派遣
東陽町ウエルネスセンター	羽村市地域支援事業 【介護予防プログラム】	通年		羽村市	介護予防プログラム指導者養成
東陽町ウエルネスセンター	江東区地域高齢者事業 【介護予防プログラム】		江東区社会福祉館	江東区	健骨・健脳体操指導 社会体育・保育専門学校学生他 指導教員の派遣
東陽町ウエルネスセンター	練馬区臨海学校 【区内中学臨海学校指導】	7/22～8/20	千葉県岩井海岸	練馬区	

財団法人 東京YMCA

135-0016 東京都江東区東陽2-2-20

TEL 03-3615-5562 FAX 03-3615-5608

<http://tokyo.ymca.or.jp/>